

# 令和5年度 栃木県立馬頭高校 学校自己評価

## 教育目標

健康で個性豊かな人格を養い、  
より良い社会をつくる人材を育成する。

## 本年度の重点目標

1. 安心・安全な教育環境の実現
2. 地域と連携した教育活動の展開
3. キャリア教育の推進

## 目指す学校像

高校生活を通して3つの素養を身につけ、社会の変化に柔軟に対応し、自ら学び自ら考え、自己の生き方を主体的に選択できる生徒を育む学校

- 向学：社会に出て通用する基礎的な学力と体力
- 礼儀：恵まれた自然環境や地域との交流を通じて得られる豊かな情操と福祉の心
- 勤労：地域と連携した交流学习およびキャリア教育を通じた勤労を尊重する態度

## ※達成度・評価について

**a・A**：十分できた **b・B**：概ねできた **c・C**：不十分だった

### ●重点目標1. 安心・安全な教育環境の実現

評価項目（具体策）	達成状況	達成度	次年度への課題	評価
(1) 面接相談・教育相談を充実する。  (2) ホームルームにおける「いじめ防止」教育を徹底する。  (3) 担任・学年・養護教諭・教育相談・対策委員会等が連携して困っている生徒に対応する。 【生徒指導部】	(1) 教育相談係から生徒へ相談の方法等について周知が徹底できた。 (2) 学校生活アンケートをはじめ各種アンケートを有効活用できた。 (3) 時間割内に係全員が集まれる体制を構築し係内での連携や情報共有ができた。	a a a	(1)・(2)・(3) 担当者間で連携して対応した生徒のその後の様子までフォローできるようにしたい。クラス担任を中心に生徒の変化に注視し、早期発見を心掛けスムーズにチーム体制を構築できるように行動マニュアル作成をめざしたい。	A  心身の安心・安全を目指し、今年度は、教育相談体制の整備や学校事故防止に向けた具体的な取り組みが進んだ。 今後は様々なケースを想定し、即応できるように備えていきたい。
(1) 定期的な安全点検を実施し、危険箇所の発見と迅速な処置に努める。  (2) 生徒・教職員ともに心肺蘇生法を体得し、緊急事態に対応できるようにする。 【健康指導部】	(1) 事務部との連携が十分に取れたため、スムーズに危険箇所の修繕が実施できた。 (2) 保健体育科の心配蘇生法授業に教職員の参加可能日を6回設定し、受講機会を増やすことができた。	a a	(1) クラス・教員数に合わせた安全点検の実施方法について適正化を図る。  (2) 心肺蘇生法授業へ全員参加できるように周知徹底を図る。	

### ●重点目標2. 地域と連携した教育活動の展開

評価項目（具体策）	達成状況	達成度	次年度への課題	評価
(1) 学校運営協議会等や校外学習の企画運営にあたり、地域と連絡調整を密に行い、地域との連携を深め、インターンシップや那珂川学の充実に活かす。  (2) PTA・同窓会主催行事の企画運営にあたり、会員間の連絡調整等を行い、会員相互の親密化と学校行事へ協力体制の充実に努める。 【地域協働部】	(1) コロナ禍明けにより校外活動が行事縮小前並みに実施できるようになった。部内各係とも各団体等との対応は十分できた。 (2) 強歩大会、古館祭など学校行事への保護者参加・協力の仕方に変化があったが、柔軟に対応できた。	b a	(1) 部として新規事業を企画し、那珂川学関連等のさまざまな地域活動がその後の探究学習につながるようにする。  (2) 同窓会役員の後継探しを本格化し、新たなPTA役員選出方法を模索し、より自律的な活動ができるよう体制を構築する。	B  各種行事がコロナ禍以前の状態に戻りつつある中で、単に復活するだけではなく、校内での各部・各学年、関係諸団体との連携の在り方等を模索したい。
(1) 那珂川学に関連する校外活動を通して、地域理解を深める。 【1学年】	(1) 計画どおりに行事等を実施できた。生徒は積極的に取り組んだが、地域理解へ結びつけるのが難しい。	b	(1) 事前学習（活動目的の周知徹底）と事後指導（振り返りを通じた目的達成等の確認）の充実を目指す。	

### ●重点目標3. キャリア教育の推進

評価項目（具体策）	達成状況	達成度	次年度への課題	評価
(1) 生徒が自己の興味や関心または特性を理解できるよう各検査や面接を活用して援助する。 【1学年】 (2) インターンシップや進路行事、職場体験等を通してキャリアプランを形成できるよう指導する。 【2学年】 (3) 進路ガイダンス、HR活動などを利用し進学・就職への心構え、人生設計、自己実現への努力をさせる。 【3学年】	(1) 生徒アンケート等から進路に不安を抱いている生徒が多い。学年での取り組みが不十分か。 (2) 事後アンケートから進路選択に関する前向きな意見が多くみられるようになった。 (3) 十分な進路指導を経て、全員の進路実現が果たせた。進路決定後に生活の乱れが見られる生徒が増えた。	b  a  a	(1) 進路学習に関する事前・事後指導の徹底を図る。学年団全員で生徒との面談の機会を増やす。 (2) 進路指導部と学年が連携して今後も各種事業を継続していきたい。 (3) 基本的には事業継続で良い。進路決定後の過ごし方等の学年集会やHR指導を実施する必要があると思われる。	A  今年度は就職希望者が全員進路を決定できた。進路指導部と学年の連携が十分に図られており、充実した進路行事が行われている。生徒・保護者アンケートからも満足度は高い。
(1) 雇用関係の変化に関する情報の収集し、生徒へ提供する。 【進路指導部】 (2) 保護者、生徒、教職員への情報提供や配付資料を充実させる。 【進路指導部】	(1・2) 随時、各種情報を入手し、情報提供を適切に実施できた。 また、進路指導室、情報室の資料配架を充実させることができた。	a  a	(1)・(2) 企業・営業所との連絡・調整を密にし、さらに情報交換を充実させることによって本校を会場とした企業説明会等を適切に実施していきたい。	

### ●保護者・生徒アンケートより

#### 【学習について】

定期試験前の自主学習に積極的に取り組めない生徒が一定数いる。生徒の学習意欲をどう喚起するかが今後の課題である。また、家庭での会話には学校の話が多くあがっているようだ。いかに学校・家庭が連携して取り組むかが今後の課題である。

#### 【部活動について】

部活動に関して、保護者・生徒ともに肯定的な意見は少ない。現在、生徒数の減少から部活動の精選が行われているが、部活動数が活性化の指標とは限らない。これからも生徒のニーズを取り入れながら、本校らしい部活動の在り方を検討すべきである。

#### 【進路指導について】

進路情報提供や個別指導等は生徒・保護者とも満足度が高い。以上のことから生徒のニーズに合った進路指導が行えていることがわかる。一方で、進路選択に役立つ各種検定・資格取得に関しては、特に生徒の関心がもう一步である。生徒の意欲を喚起する具体策が必要だ。

#### 【生徒相談（いじめ関連を含む）について】

教職員と生徒の関係性は良好といえる。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置が進み、通級による指導も始動していることから個々に応じた指導体制が充実しつつある。本校の「いじめのない学校づくり」に関しては保護者からの支持を得ていると考えられる。

### ●総合評価

A

重点目標1について、教育相談と緊急事態対応に関する取り組みが大きく前進したといえる。重点目標3ではこれまでのキャリア教育が今年度も堅実な成果を上げることができた。一方で重点目標2はコロナ禍を経て、これまでの地域連携の在り方に変化を求められおり、新たな取り組みを模索する必要に迫られてきていると考えられる。

### ●学校関係者評価より

【重点目標について】「いじめ防止」など、生徒が安心して過ごせる環境づくりを推進し、成果をあげている。と好評価をいただいた。また、那珂川学、教科「農業と環境」、水産科の課題研究などから成果を上げつつある。地域連携に関する評価は複数年で実施していくべきで、今後の課題として次年度に期待するとの意見があった。4年制大学への進学が複数名おり、就職希望者が全員進路を決定できるなどキャリア教育の充実ぶりがうかがわれる。今後も様々な学習や体験をとおして自分に合った進路を見つける機会を多く作ってほしいという要望があった。

【全体的な意見・要望】「学び直し」が馬頭高校の魅力の一つと思われるので学習に関する具体的な手立てが欲しいとの意見があった。アンケートからは、生徒・保護者の学校への満足度が高く、学校の取り組みが高く評価されているので今後も維持向上に努めて欲しい、「教職員の相談しやすい雰囲気」がややポイントがさがっているため改善を望むとの要望があった。